新しい出会いを求めて

日本初の公許女医第１号

熊谷市立 荻野吟子記念館

Ogino Ginko Memorial Museum

130年程前に、
一人の女性がつけた一本の道。
その道は、日本の女性医師への夢。
また、婦人解放の先覚者として、
栄光と波乱の生涯を閉じた
女医第１号荻野吟子の
ロマンあふれる“真実の道”
いま、その道を辿ってみたい。

嘉永４年(1851) ３月３日、現熊谷市俵瀬に、名主荻野綾三郎の五女として生まれる。幼少から学問を好み、儒学者寺門静軒が開塾した両宜塾２代目塾長松本万年に師事する。18歳のとき大名主と結婚したが、不慮の病に侵され、２年後に離婚。病の治療に屈辱的な体験をした吟子は、女性医師の必要性を痛感し、医師となることを決意する。

当時、女性には医師の道が閉ざされていたが、明治８年(1875)現在のお茶の水女子大に入学。卒業後、女人禁制だった私立の医学校「好寿院」に入学し、医学を学ぶ。目の前に立ちはだかる壁を信念と努力で打ち破り、明治18年(1885)医術開業試験に合格、日本公許登録女医第１号となり、東京の本郷湯島に開業する。

明治23年(1890)、キリスト教の活動で知り合った、志方之善と再婚する。キリスト教徒理想郷建設をめざし、北海道に渡った志方を追って、今金町に入植するが、失敗に終わる。明治30年(1897)、北海道瀬棚町で開業し、医療とともに婦人解放運動に活躍するが、志方の死去によって瀬棚町から東京に戻り、再び医院を開業する。

その後、大正２年(1913)、脳動脈硬化により**63歳の**生涯を閉じ、東京雑司ケ谷霊園に眠る。

荻野吟子の歩み

嘉永４年〈1851〉 ３月３日、武蔵国幡羅郡俵瀬村（現熊谷市俵瀬）に父綾三郎、母嘉与の五女ぎんとして生まれる。

文久３年〈1863〉 葛和田村（現熊谷市）大龍寺の寺小屋「行余書院」に入門し、北条察源に師事。

慶応３年〈1867〉 両宜塾（寺門静軒開塾）に入塾。

慶応４年〈1868〉 上川上村（現熊谷市）名主、稲村貫一郎と結婚（18歳）

明治３年〈1870〉 病気で協議離婚し、大学東校病院に入院。女医を志す。

明治６年〈1873〉 父綾三郎死去の後、画家奥原晴湖の紹介で国学者井上頼圀に入門。

明治７年〈1874〉 内藤満寿子の招きにより甲府で内藤塾の助教となる。

明治８年〈1875〉 東京女子師範学校（現お茶の水女子大学）に入学、吟子と署名、12年７月同校を卒業。

明治12年〈1879〉 軍医監石黒忠悳の尽力により私立医学校好寿院に入学。15年同校卒業。内務省長与衛生局長に医術開業試験の女子受験許可を陳情。

明治17年〈1884〉 医術開業試験を許可され受験、前期試験にただ１人合格。翌18年３月後期試験に合格し、日本初の公許女医第１号となる。

明治18年〈1885〉 本郷湯島三組町に医院開業。

明治19年〈1886〉 下谷黒門町に移転。本郷教会にて洗礼、キリスト教婦人矯風会に参加し、風俗部長となる。

明治23年〈1890〉 志方之善と結婚。

明治24年〈1891〉 志方、キリスト教徒による理想郷建設をめざし北海道に渡る。

明治27年〈1894〉 吟子渡道し、今金町にて夫の伝道に協力。

明治30年〈1897〉 瀬棚町に医院を開業。

明治36年〈1903〉 志方之善、同志社大学に再入学。

明治38年〈1905〉 志方之善、瀬棚で病死。

明治41年〈1908〉 北海道を引き揚げ、東京本所区新小梅町に医院を開業。

明治45年〈1912〉 志方籍をはなれ荻野家に復籍。

大正２年〈1913〉 ６月23日、病気にて死去、享年**63歳**。

荻野吟子顕彰碑

北海道瀬棚に移り医院を開業し、住民の医療に従事する。

荻野吟子生誕之地史跡公園

ご利用案内

開館時間 ９:00～17:00
（変更の場合もあります）

休 館 日 月曜日（祝日開館、翌平日に休館）
年末・年始、展示品整理期間中

交通案内

●**バスご利用の場合** ＪＲ熊谷駅から葛和田行きで、所要時間約30分。

●**お車ご利用の場合** 関越道東松山IC下車、県道・国道407号経由で30㎞。花園ICから国道140号・国道407経由で約25㎞。

荻野吟子生誕之地史跡公園
熊谷市立 荻野吟子記念館
Ogino Ginko Memorial Museum
〒360-0223 埼玉県熊谷市俵瀬581-1
◆問い合せ 熊谷市教育委員会妻沼事務所
TEL.048-588-1321・FAX.048-589-0456

大河利根川の向こうに赤城山を望む風土が培った根性と愛のドラマ、いま新たな出会いが始まる

往時の俵瀬は、利根川に接しながら堤防もなく、豪雨時には、たちまち氾濫する“水場”と呼ばれる流末地帯で荻野吟子は産声をあげた。

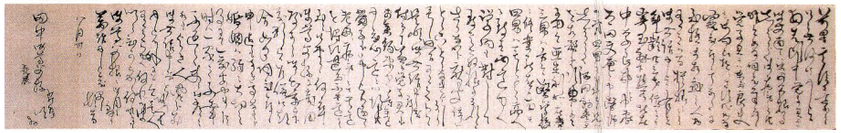
展示室

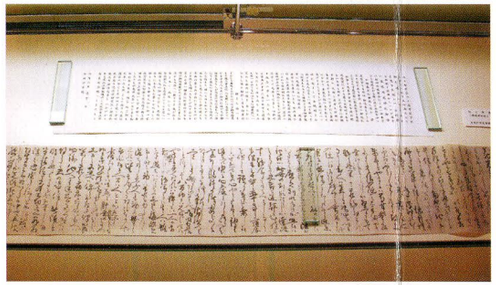
荻野家に伝えられた什器類

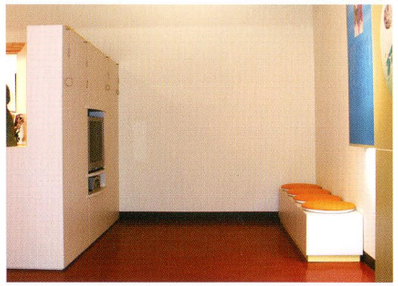
吟子に関する出版物

吟子が使用した医学書

吟子に関する様々な資料


田中かく宛の手紙

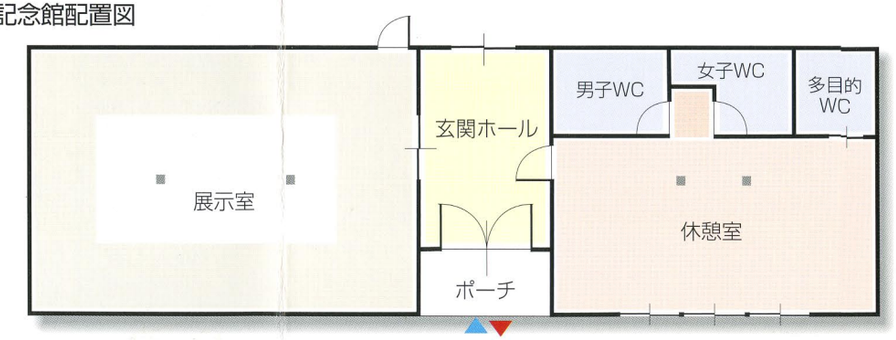

新田栄子宛の手紙


視聴覚コーナー

記念館入口

休憩室

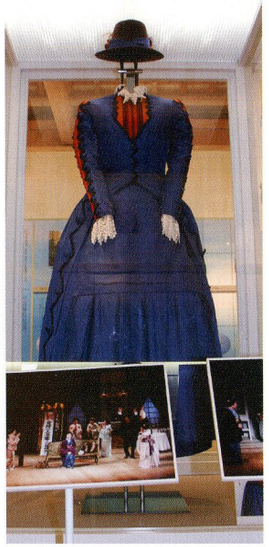
■記念館配置図



＊記念館建物の外装は、荻野吟子の生家に建てられていた長家門を模してつくられました。

“人その友のために
己の命を捐つるは
是より大なる
愛はなし”
（ヨハネ伝十五章第十二節より）

上記の句は、荻野吟子が愛唱しつづけた聖句で、顕彰碑に刻まれています。



■鹿鳴館スタイル衣装

舞台公演「命燃えて」で女優の三田佳子さんが身につけた鹿鳴館スタイルの衣装は、荻野吟子が若き日に着ていた衣装をモデルにつくられたもので、医師への道を歩んでいた往時の吟子を偲ばせます。

■荻野吟子生家長家門

荻野家は、俵瀬村の旧家として代々受け継がれてきたが、現在、荻野吟子の往時を伝える建造物は、群馬県千代田町赤岩の光恩寺に移築された長家門だけで、国の登録有形文化財となっています。